

令和8年度 研究推進計画

教務部

1 研究主題

他者と協働し、課題を主体的に解決しようとする児童の育成
～地域とともに共創する「神すぎる未来プロジェクト」の創造を通して～

2 主題設定の理由

本校では昨年度から総合的な学習の時間の授業を中心に据えて研修を進めている。「神すぎる未来プロジェクト」と名付け、地域の願いや課題を踏まえて、児童全員が「神杉の魅力を残したりもって引き出したりしていくために自分にできることは何だろうか?」という本質的な問いをもち、自分事として探究的に納得解を構築していく過程を通して、自己の生き方について考えていくための資質・能力を養う一連の流れの実現を目指し、研修をしてきた。

昨年度は、まず、本中学校区のつけたい資質・能力である、主体性・表現力・協働性が発揮された姿について、教師・児童・保護者・地域住民で具体的に設定し、その育成を目指すことを共有した。また、「地域と共に学び、地域と共に考え、地域と共に創る児童の姿」を目指し、地域の人々の暮らし、神杉の伝統と文化など地域の財を活かした単元開発を行ってきた。具体的には、1・2年生は「かみすぎってすてき」3年生は「地域を“知る”」4年生は「地域を“守る”」5年生は「地域を“活かす”」6年生は「地域を“つくる”」と学年ごとにテーマを設定し、系統的な単元を開発してきた。その中で、地域の方に、学んだことを伝えたり考えたことを提案したり、地域の方と共に新しい視点で行動に移したりする活動を行ってきた。

その結果、本校で育てたい「主体性」「表現力」「協働性」について80%以上の児童が自身に身についていると肯定的評価をした。加えて、選択肢の4段階のうち、最も否定的な項目を一人も選択しなくなったことが昨年度の取組の大きな成果といえる。その他、「神杉合い言葉」として探究的な学習の過程において資質・能力を育成するための指導のポイントを設定することができた。

一方で、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の項目はほかの項目と比べると伸びが見られなかった。自ら問いを立て、探究的な学習の過程を意識して学びを進めること、自らの学びを調整する自律的な学びには十分至っていないことが課題として挙げられる。さらに、単元構想においても、探究的な学習の過程に基づいた学びの流れが十分に意識されておらず、学習が断片的になりやすい傾向が見られる。生涯にわたって能動的に学び続ける力を育成するためにも、児童一人ひとりが主体性を発揮できるよう、子どもを主語とする授業を創造していくことが必要である。

そこで、今年度は、生活科・総合的な学習の時間を中心に、探究的な学習の過程を児童がより主体的に自律的に回していくために必要な手立てや指導の工夫について学びを深めていく。「神杉合い言葉」を基に、自律的・協働的な学びを促す指導の工夫を通して、その有効性を実践的に検証していく。

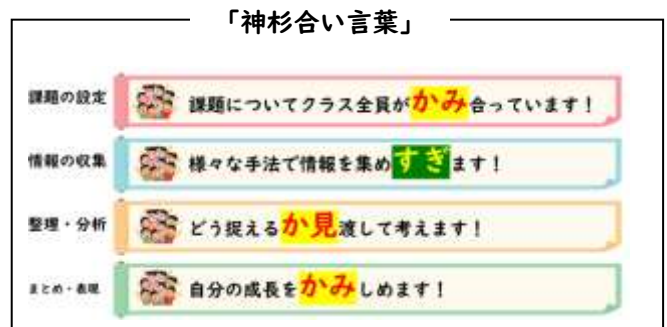
加えて、今年度は、文部科学省より「教育課程柔軟化サキドリ研究校」として指定を受け、「調整授業時数制度」を先取りするような形で教育課程を編成・実施し、研究開発を行っていく。自動車メーカーの Mazda と連携し、CO2 を生活に生かす方法を考え、探究的な学習活動を行っていく。

3 研究内容

探究的な学習の過程を質的に高めていく授業づくり

探究的な学習の過程を質的に高めていく授業づくり

- ・探究の質を高めるために、探究的な学習のサイクルにおける「神杉合い言葉」を児童と共有する。
- ・「神杉合い言葉」をもとに設定した、探究的な学習の過程での目指す姿の育成に向け、指導のポイントをもとに単元づくりを行う。



【課題の設定】

目指す姿：児童が課題を自分事と捉え、具体の共有ができている姿

指導のポイント：

- ① 自分の興味関心や疑問から課題を見つけ出し、それに対して自ら課題意識を持たせる。
- ② 単元を貫く問いについて納得し、やってみたい！なんとかしたい！という意欲を高める。
- ③ 何について学んでいるのか、何のために学んでいるのか、解決の見通しとしての取組のゴール、手順、方法、時間を児童が語るができる。

【情報の収集】

目指す姿：児童が課題を ICT を効果的に活用し、多様な方法で自発的に情報を集める姿

指導のポイント：

- ① 課題を解決するという目的を明確にして情報収集の手段を選択し、情報を幅広く収集させる。
- ② 収集した情報を種類に合わせて蓄積させる。

【整理・分析】

目指す姿：児童が根拠をもって判断し、自分の考えを構築することができていく姿

指導のポイント：

- ① 思考スキルを意識した活動を通して、考え方を学ばせる。

- ② 整理・分析の方法を自分で判断し、選択して学習を進めさせる。
- ③ 整理した情報や友達と多様な考えや意見を交流する中で、新たな意味や価値を創造し、自分の意見として表現させる。

【まとめ・表現】

目指す姿：児童が目的と相手意識を明確に持って表現方法を考えている姿、単元を通して、自己の成長や変容を実感している姿

指導のポイント：

- ① 各教科で学ぶ良さを自覚しながら、各教科で獲得した表現方法を組み合わせて効果的に表現させる。
- ② 新たな課題を自覚させる。
- ③ 学びの軌跡（掲示物・ふりかえり・他者評価）を基に、探究的な学習のよさや価値を理解させる。

4 検証方法

- ① 全国学力・学習状況調査 質問調査の項目を用いた児童アンケート(3～6年)
- ② 振り返りの場面において児童が言語化したもの
- ③ 職員アンケート

5 検証の指標

- ① 児童アンケート肯定的な評価の割合が85%以上
- ② 職員アンケート肯定的な評価の割合が85%以上

6 研究方法

(1) 児童の実態把握と分析

- ・児童の実態把握と意識調査を行う。(4月)

(2) 理論研修

- ・総合的な学習の時間における理論研修を行う。(4月～5月)

(3) ペア学年による授業実践・考察

- ・3つのグループに分かれて、常時、授業公開と事後研修を行い、効果的な取り組みについて全体で共有する。なお、他の学年の実施の様子を把握し、協働的に研修を進めていくため、グループは学期ごとに変更していく。

(4) 研究授業の実施と分析・考察

- ・研修内容の視点に沿った研究授業を実施し、研修を深め、研究の有効性を検証していく。
- ・児童のポートフォリオから振り返りの視点や成果を検証する。

(5) 研究のまとめと来年度の研究推進の計画立案 (1月～2月)

- ・児童アンケートによる児童の実態の調査と職員アンケートにより、研究の成果と課題をまとめる。

7 研修計画

月	内容
4月	・研究の概要の共有 ・育成を目指す資質・能力の共有 ・地域の教材収集研修 ・理論研修(課題の設定について)
5月	・理論研修(探究的な学習の質的向上について)
6月	・授業実践を通じた検証
7・8月	・授業実践交流会 ・理論研修(探究的な学習の質的向上について) ・年間指導計画や単元計画の見直しと修正
9・10月	・授業実践を通じた検証
11月	・学びの成果を地域へ発信(ふるさと祭り) ・研究校視察、視察報告会
12月	・授業実践交流会 ・児童アンケート
1月	・来年度の年間指導計画作成
2月	・一年間の取組の評価(成果と課題) ・カリキュラム・マネジメントシートの作成・改善
3月	・次年度研究推進計画立案